

厚生常任委員会

● 研修目的

△子育て支援の斬新な取り組みについて

● 研修地

△石川県 津幡町

● 研修結果

津幡町は石川県のほぼ中央に位置し、中核都市金沢市の北に隣接しています。人口は約3万7千最近は、ベッドタウンとして更に若い世帯が増加傾向にあります。

また合併をせずに単独でまちづくりをしている点などは、松前町と共通しています。

今回、特に子育て支援に関わる斬新な取り組みを中心に視察研修をしました。

まず保育所体制が整っていること（町立11民間2園、定員数に対し85%の入所率で当町の2.6倍）働く子育て世帯の割合が多いのもあるが、乳児を満2か月後から預かっている所もあります。延長

保育もほとんど午後7時半まで行っており充実ぶりがかがえます。

また妊娠時に身近な保育園を「マイ保育園」として登録すると、出産までその園でおむつ交換や沐浴、離乳食づくりなど育児に関するノウハウを保育士から教えてもらえます。また3歳未満時までの育児相談、半日3回分までの無料一時保育の利用など子育てサービスが受けれるという「マイ保育園制度」は、子育て世帯の精神的支柱ともなっています。

放課後児童クラブの充実ぶりにも驚きました。学校に併設する形で6ヶ所あり、場合によっては4年生から6年生も利用でき土曜の午後や長期休暇も終日受け入れています。運営は保護者や地域の役員さんたちが委員会を構成し委託され、利用料月間9300円でやりくりしているそうです。見学したクラブハウスは、広いスペースと機能的なキッチンなどもあり恵まれた施設で子どもたちが元氣いっぱいに遊んでいたのが印象的でした。



放課後児童クラブ

他にもチャイルドシート購入費の3分の1の補助制度や出生のお祝いとして2万1千円の地元商店の商品券交付制度など、若い子育て世帯にはとても魅力のある取り組みを学ぶことができ、大変刺激を受けた研修となりました。

産業建設常任委員会

● 研修目的

△大型商業施設の出店に伴う地元商店街の活性化について

● 研修地

△石川県 七尾市

● 研修結果

七尾市は能登半島の中心に位置し、平成16年10月に旧七尾市、田鶴町、中島町、能登島町の1市3町が合併し、この地域は天然の良港として栄えてきた七尾港を海の玄関口として古代より能登の政治、経済、文化の中心地として発展を続けているところです。

商店街の活性化をしている一本杉通り商店街はJR七尾駅と港に向かう途中にあります。

町の中心であった一本杉通り商店街が昭和46年に七尾駅前に大型スーパーが出店したために客が駅前へ流れてさびれました。

一本杉通りには古い建

物があり、国から文化財指定されました。

かつて嫁いでくるときに花嫁のれんを持参する風習があつて加賀友禅とか、かなり高価なもので歴史、文化があり、文化財指定された建物を点として線で結んで町おこしが出来ないかと話し合い花嫁のれん通りという形で一本杉商店街がそれぞれの蔵、筆筒に眠っていた一度しか掛けないのれんをだして、町の商業復興にしたものです。この活性化は地元商店街の方から自然発生的に出たもので、地元主体の手作り

だから、うまくいっています。地元の心意気で町が元気になっているのが現状で、市は石畳の整備とか道路の整備をしています。こののれん展は期間限定になっていて一年中、中心市街地を活性化しようとするのが今後の課題であるということです。

当町においても、地域資源を最大限に活用しつつ身近で訪れやすく、さらには個性と魅力あふれる町づくりを、進めることが必要であると感じました。



産業建設常任委員会研修